

今週（12月16日から12月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が390兆円台後半で推移し、20日は国債の大量償還・利払いがあったため、400兆円台前半まで増加した。16日からは新しい積み期となり、週初から様子見姿勢が強く、レート水準を探る動きとなった。地銀業態の調達は先週ほどの過熱感はなく、落ち着いた取引となった。無担保コールO/Nの取引レートは、都銀・地銀業態は、▲0.087～▲0.040%、信託・証券業態は、▲0.087～▲0.060%のレンジで、出会いが見られた。加重平均レートは16日の▲0.053%から始まり、週末にかけて徐々に低下していく動きとなった。貸出増加支援オへの残高増加が限定的な割に、基準比率が前期間から5.5%引き下げられたことも影響していると考えられる。ターム物に関しては、月内ショートターム物で▲0.030～▲0.020%の散発的な出会いが見られた。

12月18日～12月19日に開催された金融政策決定会合では、現状維持が決定された。同時に、ETF貸付制度の導入と貸出増加支援資金供給の一部見直し、が公表された。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.105～▲0.045%程度のレンジで推移した。週初16～17日のGC T/Nは▲0.100～▲0.090%程度、18日は▲0.105～▲0.090%程度、19日は▲0.100～▲0.080%程度、20日は投資家の資金運用ニーズが後退し、▲0.070～▲0.045%程度の甘めの水準で推移した。

SCは、個別銘柄では2y402～407、5y138～141、10y338～356、20y168～170、30y59～64、40y11～12等カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週初めは堅調だったものの、海外勢がクリスマス休暇に入り始めていることや、GCレートの上昇を受け、週後半にかけて、軟調な地合いとなった。週中は3M物で▲0.160%、6M物は▲0.155%、1Y物は▲0.125～▲0.120%程度のお合いが見られた。

17日の短国買入オペは1,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.025%、按分落札利回較差+0.022%と、在庫調整の売りからか、小甘い結果となった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.125～▲0.115%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1172%、按分落札利回▲0.1053%と、需給環境を反映してか、前回債からレートが上昇する弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.124～▲0.110%のお合いと堅調に推移した。

20日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.115～▲0.110%程度で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1061%、按分落札利回▲0.0893%と、▲0.10%を上回る結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.106%お合いと堅調に推移した。

●CP市場

CP市場は、五・十日発行を中心に、鉄鋼、石油・石炭製品、機械等複数業態でまとまった額の調達が見られ、週間発行総額は1兆円程度まで膨らんだ。しかし期末を控え償還となる物も多く、償還総額は1兆1,500億円程度と償還超のマーケットとなった。市場発行残高は、週初に22兆2,200億円程度とリーマンショック以来の過去最高値をつけたが、一般事業法人の年末資金需要は盛り上がり欠け、19日時点で21兆9,800億円程度に減少している。発行レートについては、足許の市場残高の増加に伴い、マイナスレートで積極的にCPを購入する姿勢は後退し、全般的に上昇している。特に期内物ではレート上昇が顕著にみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/16 (月)	23,952.35	△ 0.030	109.39	△ 0.053	△ 0.093	3,977,500
12/17 (火)	24,066.12	△ 0.015	109.54	△ 0.057	△ 0.095	3,974,500
12/18 (水)	23,934.43	△ 0.020	109.44	△ 0.060	△ 0.096	3,962,000
12/19 (木)	23,864.85	△ 0.010	109.58	△ 0.061	△ 0.095	3,969,000
12/20 (金)	23,816.63	0.005	109.39	△ 0.061	△ 0.070	4,042,700

来週（12月23日から12月27日）の短期金融市場動向

● 経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/23 (月)	10月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				11月の米新築一戸建て販売件数 11月の米耐久財新規受注
12/24 (火)	クリスマスイブ 金融政策決定会合議事要旨(10月30-31日分 8:50)	2Y 20,000億円 1/6発行			EURO祝日(Christmas Eve)
12/25 (水)	クリスマス 11月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)				New York、EURO、London祝日(Christmas Day)
12/26 (木)	日本経済団体連合会審議委員会において黒田総裁講演 11月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				EURO祝日(Christmas Holiday) London祝日(Boxing Day)
12/27 (金)	決定会合における主な意見(12月18-19日分 8:50) 11月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 12月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 11月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 11月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50)				

● 資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/23 (月)	▲ 2,900	▲ 13,500	▲ 16,400	CP買入 国債補完	▲ 300 1,200		900	▲ 15,500	TB3M発行▲43400償還42700 流動性供給▲6000
12/24 (火)	▲ 3,000	▲ 9,000	▲ 12,000	社債買入		800	800	▲ 11,200	
12/25 (水)	▲ 4,000	▲ 1,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	
12/26 (木)	▲ 4,000	▲ 2,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	
12/27 (金)	▲ 3,000	▲ 3,000	▲ 6,000	全店共通	▲ 5,800		▲ 5,800	▲ 11,800	
週間合計	▲ 16,900	▲ 28,500	▲ 45,400	—	▲ 4,900	800	▲ 4,100	▲ 49,500	

12/23は日銀予想、12/24以降は当社予想

● 短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、落ち着いた取引が予想され、取引レートは横ばい圏で推移すると見られる。レポ市場は、GC O/N物が▲0.080～▲0.040%程度で推移すると予想される。短国市場は、入札の予定がなく、海外勢がクリスマス休暇に入っている中、閑散なマーケットとなるのが予想される。短国買入オペは24日に2,000億円で実施されると予想される。CP市場は、多くの事業法人で月末週となるが、引き続き四半期末は残高を落とす方針の発行体も多く、通常の月末に比べて静かなマーケットとなるのが予想される。また25日にはCP等買入オペが3,000億円で実施予定となっている。前回のオペ時から発行残高が更に拡大し、発行レートも高止まりとなっていることから、大きくレートが低下する可能性は低く、引き続き浅いマイナスで決着することが予想される。

主要なイベントは、特段無い。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入